



令和3年度 函館白百合学園高等学校 国公立合格速報！
【合格者インタビュー】



北海道大学 医学部 医学科

S,Sさん (3年L組)

■合格おめでとうございます。合格した今の心境は？

——めちゃくちゃ嬉しいです。夢みたいです。信じられないし、とにかく「嬉しい！」の一言に尽きます。

■合格発表は自分で見たの？

——はい。でも、とにかく落ち着かなくて、家で見ると吐きそうで（笑）。気分転換に散歩に出ました。近くの神社とか行ったりして……。そんな時に公園でブランコを見つけたんです。「あ、ここで見よう。私の人生はここで決まるんだ」と、なんか直感的にそう思ったんですね。で、ブランコにゆらゆら揺られながら見ました。

そうしたら、あるんですよ！ 私の番号が！！信じられませんか？！

■確かに、そういう気持ちになるくらい、2月25～26日の個別試験を受けてから合格発表までは落ち着かない、恐怖の時間でしたね。

——本当にそうです。ごはんも食べられない、寝られない、吐きそう……とにかく落ち着かない！ 本当につらかった。

二次試験が終わった2月27日からは、「あ～浪人か。この苦勞をもう一年か。……いやいや、無理無理。耐えられない……でも、もし落ちたら受験するしかない。覚悟きめなきゃいけない」と、頭の中でぐるぐるしていました。

でも、こんなに悩んで苦しくても、「合格」で一気に気分が上がりました（笑）。本当に嬉しい。奇跡です！

■いや、努力して頑張ったからこそですよ。ところで、医学部を目指した理由とか時期は？

——医者になりたいと思ったのは幼稚園です。ほら、子どもだから「医学部」ってわからないし。家族が病気がちで、子ども心に、家族の助けになりたいと思ったのがきっかけです。医学部を目指したのは小学校の時。親に、医者になるには医学部に行かなくてはならず、いっぱいいっぱい勉強しなければいけないんだよ、と言われました。その時から、勉強を始めましたね。

うちの親は「勉強しなさい」と強制はしなくて、私の自主性を尊重してくれました。だから、塾に行くときにも、私の方から「塾に行きたい」って言うてきました。

■北海道大学の医学部を志望したのはなぜ？

——ありふれた理由かもしれないけど、最初は「レベルが高いところを目指したい」という思いからです。北海道に住んでいて、ほら、やっぱり北大って憧れじゃないですか（笑）でもそれでも最初は東京の国立大学も考えました。高2の冬に、「あ、この成績じゃ無理…」と諦めたんですけどね（笑）

■え、諦めちゃったの？

——ええ…まあ、そうなんですよね…（苦笑）。ただ、高1の時からSNSなどで情報収集はしていて、医学部を目指している人がどんな勉強をしているか、どんな問題集を使っているか、とかは常にリサーチして勉強や進路選択には活かしていました。それに医局が強い大学はどこか、とか（笑）。で、総合的にいろいろに判断して、やっぱり北大医学部に行きたい、と高3の夏に決めました。高3の夏に志望先を決めるって、

本当は遅いですよね。

■一般的にはそうかもしれないけれど、あなたの中ではちゃんと順序を踏んでいての決定だからそのタイミングで正解だったのだと思います。

—はい。いつか正確には覚えていないけれど、推薦で受けるという話も何回か出たと思います。でも、やっぱり「北大医学部に行きたい!」という気持ちが強くて、やっぱりごちゃごちゃ考えないで「一般受験で貫くぞ!」という覚悟で突っ走りました。

■月並みな質問になりますが、そもそも函館白百合学園高等学校を選んだ理由は?

—これって、本当に本音を言ってもいいですか(笑)。ズバリ、制服がかわいかったからです。白百合の制服、大好き! 本当にかわいいと思う。推薦の面接の時に、もちろん「LB 特講など、勉強の環境が整っていて…」とか言いましたが、本当の動機は制服(笑)。あ、でも、これって公には言っちゃダメですよ(笑)。

■いえいえ、それだって大事な動機ですよ(笑)。むしろ、そういう動機って、中学生的には安心するかもしれませんね。下手に「勉強の体制が…」と言うよりも、より本音で。

—LB 特講はきつかったんですよ(苦笑)。確かに、勉強する環境は整っていたけれど、高3のLB 特講は本当にきつかった。自分には20:00までなんて無理って思って、高3では「自分でやろっかな」とやり方を変えました。でも、分からない時は先生に聞くと、ちゃんと教えてくれたし、そういう意味で「自分だけ」でやったわけではありません。先生にちゃんと頼っていました。

白百合に来て、本当に良かったです。

クラスの皆、優しいし、行事も一生懸命に取り組むし、いろいろなところで勇気づけられました。

先生方も、親身になって、声もかけて下さるし。「あ、気にかけてもらえてる」っていうのが心の支えになってました(笑)。

■あなたは、どちらかという、自分のペースで、自分一人で勉強できるタイプだけれど、それでもクラスの仲間がいるというのは心強かったのでは?

—そうなんです。共通テストが終わってから2次試験までの間は、思っているよりけっこう長いんですよ。共通テストまではとにかく教科は多くてやることも多くて本当につらかったけれど、2次試験まではモチベーションを保つ上でまた違った辛さがありました。でも、学校に来たら、同じ境遇の仲間がいて、一生懸命勉強している。その姿に感化されて、励まされて—、私、朝苦手なんですけど(笑)、頑張って起きて、バスに乗って来てました。先生方が「受験は団体戦だ!」っておっしゃるけど、本当にそうだなって実感しました。この時に同じ時を過ごした友達は、一生の友達です。

■後輩へのメッセージをお願いします。

—受験は、本当につらいです。二度としたくない(笑)。でも人生の重大事で、諦めずに頑張っていると、必ず報われると思います。諦めず、ペンを離さず、頑張ってください。

■大学では何をしたい?

—勉強! これしかない! 勉強するために大学に行くので。

私、医学の勉強を本当にしたかったんです。これから本当にしたい勉強がやれる。

そして、まだ何科の医者になるとか明確なビジョンはないけど、社会に貢献できる医者になりたい。そのために勉強しに行くんです。大学で時間はあるから、どういう医者になりたいか、時間かけて探します。

私の人生、今、始まりました!